

京都造形芸術大学

舞台芸術研究センター主催

空中庭園  
能ジャンクシヨン

# 當麻

TAEMA

—折口信夫《死者の書》による—

2008年3月1日(土) 17:00 開演

3月2日(日) 14:00 開演

◎2日のみ終演後シンポジウム：「折口信夫と越境する伝統」  
出席者：浅田彰、松浦寿輝、渡邊守章

会場：京都芸術劇場 studio21

作・構成・演出

渡邊守章



民俗学者で歌人・小説家、折口信夫の代表的小説『死者の書』と、謎の多い能『當麻』の相互照射の試み。1988年に渋谷パルコPart-3で、観世榮夫、野村武司(現萬斎)、後藤加代によって初演され、好評を博した作品のリニューアル・ヴァージョン。

春・秋の彼岸中日、二上山に出現する美しい半裸の若者の荘厳な姿。藤原南家郎女(中将姫)の日想観を貫くエロスと聖性。幻想の根は、帝への謀反の罪で処刑され、二上山に埋葬された滋賀津彦(大津皇子)の御霊だが、時空を超えたこの異形の恋の真の謎とは？

… した、した、した … 彼の人の眠りは、徐々に覚めて行った …

作・構成・演出・美術：渡邊守章

出演：後藤加代 梅若晋矢 梅若慎太郎

照明：服部 基／音響：成富永通／映像：渡邊敦彦  
演出助手：前川鍊一／舞台監督：本城義明／制作：渡邊清子



渡邊守章

1933年東京生まれ。東京大学教授、放送大学副学長、バリ第三大客員教授等を経て東京大学名誉教授、京都造形芸術大学客員教授。専攻フランス文学・表象文化論。演出家。ラシーヌ、クローデル、マラルメ、ジュネなどを専攻。著書に『ポール・クローデル——劇的想像力の世界』、『虚構の身体』(中央公論社)、『哲学の舞台』(ミシェル・フーコーとの共著、朝日出版社)、『舞台芸術の現在』(放送大学教育振興会)、『バリ感覚』(岩波現代新書)等。訳書に、ラシーヌ『フェードル アンドロマック』(岩波文庫)、ミシェル・フーコー『性の歴史——知への意志』(新潮社)、クローデル『繻子の靴』(上・下、岩波文庫、毎日出版文化賞、日本翻訳文化賞、小西財団日仏翻訳文学賞受賞)、ロラン・バルト『ラシーヌ論』(みすず書房、読売文学賞受賞)等。演出作品に、ラシーヌ『悲劇フェードル』(芸術祭優秀作品賞)、クローデル『真昼に分かつ』、ミュッセ『ロレンザッチョ』、ジュネ『女中たち』(読売演劇賞)、泉鏡花『天守物語』等。能・狂言などの日本の伝統演劇にも詳しく、現代音楽とのコラボレーションによる『能ジャンクション』として『葵上』、『當麻』を、またクローデルの詩による創作能『内堀十二景、あるいは二重の影』、『薔薇の名——長谷寺の牡丹』を作・演出。演劇企画「空中庭園」主催。



後藤加代

演劇集団円における波辺演出の実験的ラシーヌ悲劇で、その存在感と強度のある声と台詞によって、悲劇女優としての類稀な才能を認められる。ラシーヌ『バジャゼ』の後妃ロクサーヌ、『アンドロマック』のアンドロマック、『女王ベレニス』のベレニス(芸術祭新人賞)、『悲劇フェードル』では、有史以来初めて、パリにおいて日本人による日本語のラシーヌ悲劇として高く評価され、1999年には、パリでリニューアル・ヴァージョンに出演。パルコ能ジャンクション2『當麻』で観世榮夫と野村武司(現萬斎)と共演。泉鏡花『天守物語』の富姫(後に「空中庭園」製作でバリ公演も)、シェークスピア『ハムレット』(野村武司主演)のガートルードなど。円を退団後は『キャバレ』等のミュージカル、平幹二郎のシェークスピア連続上演に参加。2005年には、クローデル没後50周年記念・波辺演出「朗読オラトリオ『繻子の靴』」(全曲版)で、その健在振りをアピールした。



梅若晋矢 (観世流シテ方)

能楽観世流梅若家の、故五十五世梅若六郎の孫として生まれ、祖父ならびに現当主梅若六郎に師事。『鞍馬天狗』の子方で初舞台、『小袖曾我』の五郎で初シテ。『梅栄会』を創設、後進の指導に当たると共に、多くの演能活動を行っている。能楽協会会員、重要無形文化財総合指定(平成10年)。主な演能曲目は『狸々乱』、『石橋』、『翁』、『道成寺』、『隅田川』、『松風——見留』、『求塚』、『卒塔婆小町』等。新作・創作能の上演にも積極的に参加し、『細川ガラシャ』、『鷹姫』、『不知火』、『内濠十二景、あるいは二重の影』、『薔薇の名——長谷寺の牡丹』等に出演。フランス、ベルギー、アメリカ、オランダを始め、多くの海外公演に参加している。波辺演出では、上記『内濠十二景、あるいは二重の影』のフランス初演以来、再演(春秋座公演も行った)、三演と、その二重の影ドニャ・ブルエーズは高く評価されてきた。『薔薇の名——長谷寺の牡丹』の漂泊詩人の役も、初演、再演と、クローデルの内心の軌跡をよく表していた。



梅若慎太郎 (観世流シテ方)

1985年生まれ。梅若晋矢の長男。現当主梅若六郎、父梅若晋矢に師事。初舞台「老松」の仕舞、初シテ「狸々」、『翁』の千歳、『狸々乱れ』のフキを抜く。新作能「安部清明」の清明役、現代劇向田邦子作「胡桃の部屋」の三田村研一郎役を演じた。『Hanako west』が、能大鼓方の亀井広忠、文楽大夫の豊竹咲甫大夫尺八の藤原道山とともに、「次世代の古典芸能を担う四人の侍」に挙げた。

【日時】 2008年3月1日(土) 17:00 開演  
3月2日(日) 14:00 開演 ※開場は30分前

【場所】 京都芸術劇場 studio21 (京都造形芸術大学内)

【料金】 前売(全席自由席) 一般……………3000円  
シニア……………2500円  
学生&ユース…2000円

◎当日は500円増  
◎シニアは60歳以上の方・ユースは25歳以下の方(※要身分証明書提示)

【チケット取り扱い】 1月7日発売開始

◎京都芸術劇場チケットセンター…TEL:075-791-8240 (平日10時~17時)  
◎電子チケットびあ…TEL:0570-02-9999 Pコード 382-019 (10時~23時30分)  
URL: <http://www.pia.co.jp>

劇場アクセス  
◎JR「京都」駅、京阪「三条」駅、阪急「河原町」駅から  
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(京都駅から約50分)  
◎市営地下鉄「丸太町」・「北大路」駅から  
→京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)  
◎京阪電鉄「出町柳」駅から  
→叡山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車、徒歩10分。  
→タクシーで10分  
◎駐車場はございません。



【シンポジウム情報】  
3月2日(日)公演終了後、別会場にてシンポジウムを開催します。

# 「折口信夫と越境する伝統」

会場：京都造形芸術大学 人間館NA102  
料金：無料(1日もしくは2日の『當麻』公演チケット半券が必要) 要事前申込 定員150名  
申込先：京都芸術劇場チケットセンター (平日10時~17時)  
TEL:075-791-8240 FAX:075-791-9438 (氏名、電話番号、FAX番号、申込み人数を明記のこと)

出席者：浅田彰、松浦寿輝、渡邊守章



浅田彰

1957年生まれ。京都大学経済研究所准教授。経済学、社会思想史専攻。主な著書に『構造と力』、『逃走論』、『モダニズムのハード・コア——現代美術批評の地平』(岡崎乾二郎・松浦寿夫との共著)、『歴史の終わり』を超えて(対談集)、『表象文化研究——文化と芸術表象』(渡邊守章・波辺保との共著)ほか多数。



松浦 寿輝

1954年生まれ。東京大学教養学部・大学院教授。表象文化論、フランス文学専攻。詩人、映画批評家、小説家。主な著書に『口唇論——記号と官能のトポス』、『折口信夫論』(三島由紀夫賞)、小説に『花腐し』(芥川賞)、『半島』(読売文学賞)、『川の光』、訳書にアルトー／テリダ『デッサンと肖像』ほか多数。

主催／お問い合わせ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター  
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 TEL:075-791-9437 FAX:075-791-9438 URL:<http://www.k-pac.org>